



MAEDA



未来から信頼される建設会社へ。

この星に生きるすべての人々が、共に解決しなければならない地球の環境問題。
私たちは、お客様、エンドユーザー、地域社会はもちろん、地球もまた大切なステークホルダーと位置づけ、
すべてから「最も信頼される」環境経営企業でありたいと考えています。
やがてこの星を担う子供たちの笑顔のために、「これはできる」から「なにができるか」へ。
trust of the future…すべてのステークホルダーから、
そして、「未来から」最も信頼される建設会社へ。私たちは、前田建設です。

【trust of the future】
前田建設は、当社の全役員が企業の一員であると共に、社会の一員、そして地球の一員であることをいつも自覚し行動することで
「未来から信頼される建設会社」になれると考えています。表紙のグリーンハートは、未来のために集まり、行動する多くの意志を表しています。

OUR INNOVATION



未来をイノベートするという戦略

人類と地球の未来のために、 求められる持続的経済発展。

世界的干ばつ、局地的豪雨、熱帯雨林の減少や絶滅危惧種の増加など、さまざまな地球環境問題を抱えてなお展開される世界の経済活動。また、先進国では資源や食料の獲得競争が加速する一方、途上国では貧困などによる衛生、食糧、教育などの問題も発生しています。同時に日本では、少子高齢化や成熟社会の到来に備えハード・ソフト両面での社会基盤の再構築が求められています。また、2011年の東日本大震災を機に迫られる防災・減災、エネルギー問題

への対応も緊急の課題。持続的経済発展への取り組みが今、あらゆる産業、企業に求められていることはいうまでもありません。

コア事業の維持と強化を基盤に、 日本のインフラ事業を変える イノベーターへ。

社会に提供する価値を持続的に拡大する企業を目指す前田建設。その基盤は、コア事業である建設事業であり、その原動力となるのは確かな技術力、営業力、設計力、現場力を合わせたところに生まれる建設能力です。前田建設では、これまでの堅実経営に裏付けされる

規律ある受注スタンスを堅持し、コア事業の維持と強化を実現します。

また、インフラのライフサイクルマネジメントを担うJMなどによる高いグループ力も私たちの強み。この強みを武器に今、前田建設が取り組んでいるのが、コア事業を基盤にその上・下流に領域を広げ、インフラ事業のプロセスを一貫して担うという革新です。私たちは新たなステージを確立するイノベーターとして、「脱請負」「グローバル化」、そして「CSR・環境経営」を基盤とした新たな取り組み「CSV経営」を通して、持続的成長を実現すべく邁進いたします。

PROGRESS

FROM A CONTRACT



仙台国際空港

愛知県有料道路

施工で培った力が拓く 新しい建設業の姿「脱請負」。

ビジネスモデルの転換を迫った 20世紀後半からの経済不況。

20世紀終盤に欧米において巻き起こった経済不況は、建設業界にも大きな影響を及ぼし、現地企業はそれまでのビジネスモデルを見直し、大きく転換させることを余儀なくされました。

やがて日本にも波及し始めた不況の波。ますます厳しさを増す経営環境。日本の

建設会社にも、その過酷な時代を乗り切る策が早急に求められていました。

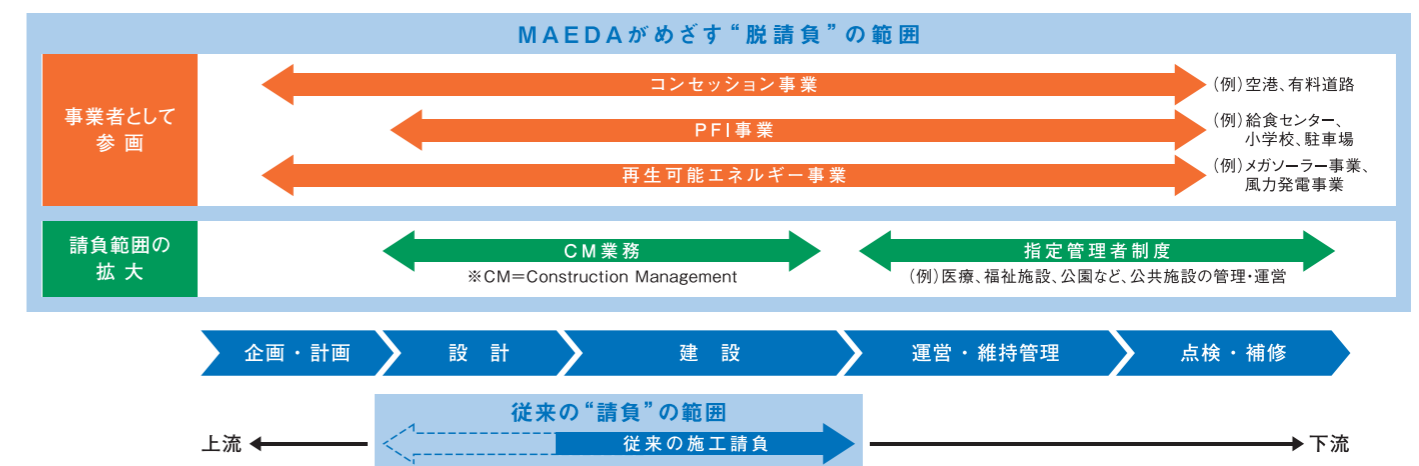
請け負うだけの建設会社から、 請け負い、事業する建設会社へ。

欧米の経済不況が日本に波及してくることを予見していた前田建設が目にしたのが、すでに欧州でさまざまな実績を上げていたコンセッション方式でした。これは公共施設の運営権を委託された民間事業者が、自ら建設・運営・維持更新と資金調達を行い、投下した資金を料金収入で回収する仕組みです。

この考え方をもとに、「脱請負」というビジネスモデルに取り組み始めた前田

建設は、事業を創出するという強い意志のもと、請け負うだけの建設会社から、請け負い・事業する建設会社への脱皮を図ります。2014年には、オーストラリアを拠点とするグローバル金融グループ「マッコリー・グループ・リミテッド」の投資銀行部門「マッコリーキャピタル」と合弁会社を設立。世界各国で100以上のインフラ事業を投資・管理・運営するマッコリーとお互いの強みを生かしたパートナーになることで、再生可能エネルギー発電事業や、コンセッションによるインフラ運営事業を展開するうえでの選択肢を拡げています。

■ 脱請負概念図：従来の施工請負とその上下流



S U S T A I N A B L E

C O M P A N Y
A C T I V I T Y

アッパーコトマレ水力発電所(スリランカ)



前田建設が保護活動支援を行う「ツマベニチョウ」(沖縄県竹富島)

A I M
A T

T H E G L O B A L I Z A T I O N

**再生可能エネルギー発電、
コンセッション。動き始めた「脱請負」。**

「脱請負」の目標に向け、すでにさまざまな事業に着手している前田建設。その先陣を切ったのは、環境問題の解決を目指す前田建設の真骨頂ともいえる再生可能エネルギー発電事業への取り組みです。

茨城県つくば市では最大出力2MWのメガソーラー事業が稼働を開始。また、岩手県大船渡市では、最大出力18MWの五葉山太陽光発電所を建設、



五葉山太陽光発電所

2015年より売電を開始しており、震災被災地の復興事業として地域に貢献しています。さらに、山口県下関沖では、60MWの着床式洋上風力発電事業も計画するなど再生可能エネルギー発電事業は着実に進められています。



(仮称)安岡洋上風力発電事業

一方、国内第1号のコンセッション方式となった仙台空港特定運営事業や、愛知県有料道路事業において、当社は他企業とコンソーシアムを組み、その運営権を獲得。いずれも2016年から長期にわたる民間運営がスタートしました。前田建設は、今後計画される有料道路・空港・上下水道などのコンセッション案件にも積極的に参画する予定です。



仙台空港(イメージベース)

**現地との信頼関係から
飛躍する「グローバル化」。****現地との信頼関係と「脱請負」の
精神が可能にするグローバル化。**

少子高齢化が進む日本では、長期的には国内市場の縮小が予測されます。このことから、海外への事業進出、事業展開は、建設業界に共通する課題です。1963年の香港支店開設以来、積極的に海外展開に取り組んできた前田建設では、こうした日本の市場変化に備えつつ、著しい成長を示すASEAN諸国を中心としたニーズに応えるため、これからもグローバル化を強力に推進します。

そして、そのために不可欠なのが、「建設事業」をベースに蓄積した技術と「脱請負」のノウハウ。価格競争が激しい海外にあって、求められるのは価格プラスαのバリューを提示できる建設会社であると私たちは考えています。もちろん、現地企業、現地スタッフと共に歩んで行くという姿勢も海外展開には必須の要素。

現地と共に歩み、その信頼を獲得することで現場の真のニーズが理解できる。「請負企業」からさらに「事業者」の視点を持つことで、海外顧客に期待を超える技術と満足を提供できる。私たちは、これこそが他社との差別化を可能にする、前田建設だからこそできるグローバル化のキーファクターであると考えます。

**事業拠点のさらなる強化と
新たな事業拠点の開拓を目指して。**

COFICOと当社職員の現場打ち合わせ

前田建設では世界13の国と地域に展開する事業拠点の強化と開拓を推進。ベトナムでは、事業の拡大を念頭に大手建設会社COFICO社やVINA6社と業務提携を締結。トルコなどの地域でも現地パートナーとの提携を進めています。また、ミャンマー、インドネシア、メキシコにも拠点を開設するなど、着実にグローバル化を進めています。

**地球と人、未来を
見据えた「環境経営」。
そして「CSV経営」へ。****美しい地球、輝く未来、
人々の笑顔を創造する企業として。**

建設会社が造るものは、人々や社会に安全や安心、豊かな生活を提供する一方、それが長期間にわたって機能し、自然環境にもさまざまな影響を及ぼすことを忘れてはいけません。前田建設ではこの考え方のもと、「事業」「企業」「個人」のあらゆる領域で環境に対する意識を高め、理解し、行動に移すことを実践。未来の地球、社会、その未来を担う子供たちを見据えた数々の社会貢献活動は、「未来から信頼される建設会社」を標榜する企業としてふさわしい



「誠実な企業賞」授賞式

ものと、各方面から高い評価を獲得しています。

**「環境経営」を基盤に「CSV経営」へ、
進化する前田建設。**

2016年4月、前田建設は前田操治社長による新体制がスタートしました。同時に、「環境経営No.1」を掲げ進めてきた、地球環境や未来の社会にも責任ある企業を目指す考え方を、さらに発展させた「CSV経営No.1」への取り組みを開始しています。



2018年秋完成予定の新技术研究所(茨城県取手市)

前田建設は、コア事業である建設事業や脱請負などの事業活動を通じて、お客様や協力会社を含めた、あらゆるステークホルダーと連携して、様々な社会的課題の解決に積極的に取り組み、社会とともに持続的に発展・成長することを目指して参ります。

—— 原点 ——

大地から都市へ、時代の最先端へ。 土木から一步を踏み出した前田建設。



木曾福島第2水力発電所工事現場で。前列中央に座っているのが初代又兵衛。

木曾福島第2水力発電所 (長野)

大正8年、創業最初に請け負ったのは、製鋼所に電力を供給する発電所建設工事だった。現在、その跡地には放水口と基礎部だけが当時の面影を残す。



田子倉ダム (福島)

昭和35年竣工。堤高145m、堤頂長462m、総貯水量49,400万 m^3 。当時のコンクリート重力式ダムとしては東洋一の規模を誇った。(写真提供:電源開発株式会社)



表面不純物の取り除き



田子倉ダム建設現場を視察する先代又兵衛

はじめは「土木」。

大正8年(1919年)1月8日、福井県の小和清水の地で、初代前田又兵衛が土木工事専門施工業者として創業して以来、昭和21年(1946年)11月6日、「前田建設工業株式会社」への改組を経て現在に至る前田建設。おかげさまで今、私たちは総合建設企業として確かな評価を集めています。しかし、その道程は決して平坦なものではなかったのが事実。努力の上に仕事を成就させたその足跡には、仕事に携わる人すべての汗と涙、そして大きな喜びが刻まれています。

17歳の少女が面取りに励んだ 木曾福島第2水力発電所。

私たちが大正8年(1919年)に初めて請け負ったのは、長野県木曾川に流入する王滝川に新設される木曾福島第2水力発電所でした。

今はその姿を見ることもできないこの発電所ですが、当時のエピソードとして残るのが、初代前田又兵衛の次女「千代乃」の逸話です。

当時、彼女はわずか17歳という年齢で事務所の経理や総務の仕事一切をこなし、さらには面取りに励んだと言います。後に前田建設を末永く支えることになる井上茂と結婚した彼女は、

結婚後も二代目前田又兵衛とその重臣たちの要となり、85歳の天寿を全うしています。

男の世界で才覚を存分に発揮し、その役割を見事に果たした彼女の情熱は、現代の前田建設に働く女性たちにも受け継がれているのかも知れません。

二代目前田又兵衛の正念場。 東洋一と称された田子倉ダム。

時は移って昭和30年(1955年)、創業以来、さまざまな大型ダム式発電所建設や鉄道路盤工事などの実績を重ねていた前田建設が請け負ったのが、福島県只見川の上流で電力の緊急事態に備えて計画された田子倉ダムでした。

この時すでに前田建設工業の社長として指揮に立っていた二代目前田又兵衛にとって、田子倉ダムの受注はまさしく正念場。堤高145m、堤頂長462m、堤体積1,978,000 m^3 、発電所出力は同時期に建設されていた佐久間ダムを凌ぐ38万kWという当時で東洋一と称されたスケールで、受注を狙う競合各社から垂涎的的となっていました。しかも、佐久間ダムがアメリカの技術指導と大型機械に大きく依存していたのに対して、田子倉ダムは前田建設の技術でアメリカの機械を駆使して挑む世紀の大事業。二代目を担った先代又兵衛にとっては、命に

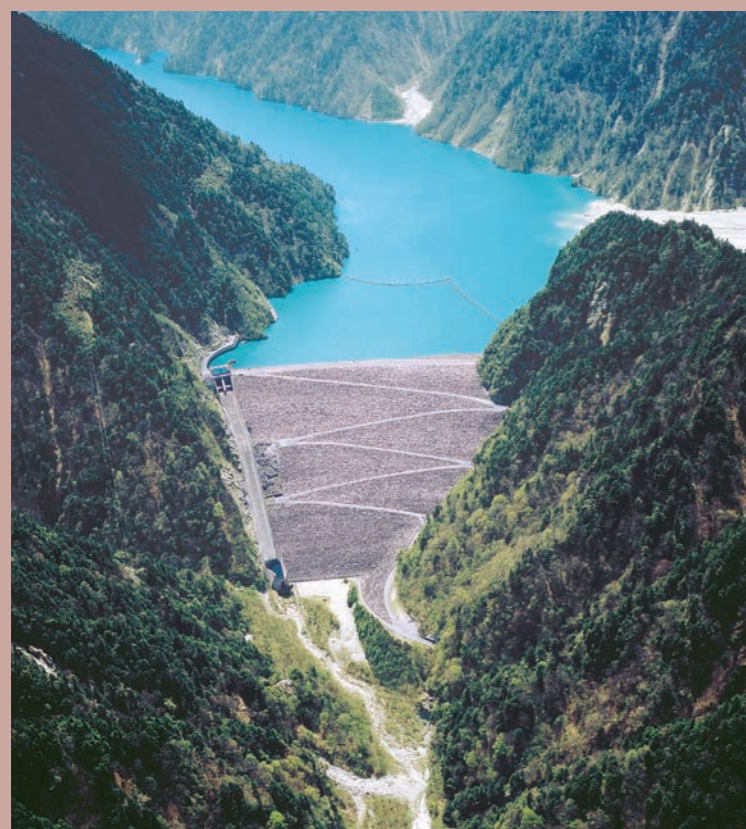
代えても受注しなければならない工事だったのです。

そして、全社挙げての努力が実り、受注した田子倉ダム建設。そこでは日本で最初といわれた工法や記録が確立されていきました。たとえば、重力式コンクリートダム建設の評価基準のひとつとなる1日のコンクリート打設量は、8,462 m^3 という空前絶後のもの。ダム竣工時の堤内漏水量は、満水位で毎分11 l というこのクラスのダムではほとんどゼロに等しい驚異的な数値を示していたのです。また、ここで確立された電気発破の作業手順は、以後の土木工事だけでなく、鉱山や

採石工事に革命的な安全性をもたらし、後々の産業界の火薬災害を激減させることで、無数の尊い人命を救うことにも貢献しています。

やがて完成の日を迎えた田子倉ダム。しかし二代目前田又兵衛は、発電所の玄関脇の山を押さえる巨大な擁壁の仕上がり汚いと行って全部を削らせ、やり直しを命じています。その「こだわり」を証明するかのよう、現在も化粧をしたような美しさを見せる田子倉ダム。こんなエピソードもまた、土木工事にすべての情熱を注いだ前田建設の姿勢を語る一例と言えるでしょう。

原点



高瀬ダム(長野)
昭和54年竣工。堤高176m、堤頂長362m、総貯水量7,620万 m^3 。高瀬川再開発計画によって建設されたロックフィルダム。

ロックフィルダムの表面は、直径1m以上もある玉石を8万個、チルトドーザーでひとつひとつ並べて仕上げられている。



40t級ブルドーザー24台、9.2 m^2 タイヤローダー14台のほか、締固め機械やクレーン、ミキサー車などの重機械が投入された。



カプスイモン橋

平成9年(1997年)竣工。当社が香港で施工した国際空港ターミナルビルとカプスイモン橋は、それぞれ500ドル札と100ドル札の絵柄になっている。



ランパンーチェンマイハイウェイ

1965年着工。国連が決めた戦後最大の道路計画「アジアハイウェイ」に日本から初めて挑戦。当該工区の第2工区(約28km)を担当した。



光が丘J.CITY

当社機材センター跡地を活用し、自社開発物件として1993年12月に竣工。光が丘本店、光が丘興産、ホテルカデンツァが入居する。

「夢の工場」から生まれた夢のダム、高瀬ダム。

昭和46年(1971年)、請け負ったのが東洋一の大規模揚水発電用ロックフィルダム、高瀬ダムでした。

田子倉、有峰時代とは桁違いの重機械類が投入された現場では、1日30,000 m^3 という膨大な盛立量目標を着実に消化。また、重機械類の運行や盛立材の品質などを本社と現場間のコンピュータネットワークで管理したり、部品の供給システムを完備した重機械類の整備工場を設営するなど、そこはまさしく人里離れた山中に出現した「夢の工場」の様相を呈していたのです。

昭和54年(1979年)に完成し、今もロックフィルならではのやさしい雰囲気漂わせる高瀬ダム。その傍らには、二代目前田又兵衛の夢をカタチにした証として「施工 前田建設工業」の碑が建立されています。

このようにダム建設によって鍛え育てられてきた前田建設は、トンネルでは青函トンネルを施工。本州四国連絡橋、東京湾横断道路など様々な分野で、技術的にも難易度の高い国家的プロジェクトを数多く手掛けてきました。また海外でも昭和38年(1963年)に進出した香港においては、現地紙幣の絵柄となっているカプスイモン橋や、世界

最大級の斜張橋ストーンカッターズ橋を完成させ、タイでは昭和40年(1965年)からランパンーチェンマイハイウェイの建設に携わるなど「土木の前田」の地位を不動のものにしてきたのです。

そして建築、高層建造物へ、21世紀の前田建設へ。

一方、前田建設の建築の歴史はダムの管理棟や公団住宅から始まりました。昭和35年(1960年)に建築部を設けると、同年には大型物件となる住都公団・常盤平団地を受注。1980年代には本格的に民間工事に取り組み始め、発電所、工場、集合住宅や商業施設などにも展開していきます。

昭和61年(1986年)、高層RC建造物の開発に着手。昭和63年(1988年)には(財)日本建築センターの「高層コンクリート構造技術委員会」の審査を終了させ、この間に構造設計法、部材の性能評価、施工法を確立するに至ります。そして1990年代に入ると平成3年(1991年)前田建設初の高層RC造21階建てのマンション、ライオンズステーションタワー東札幌が竣工。以後も天王洲、光が丘の超高層ビル、更にドーム建設などにチャレンジし建築の技術を上げて行きます。RC建造物の設計・施工を積極的に技術開発する前田建設は、2000年代に

入ると勝どきの高さ200mのツインタワーをはじめ数多くの実績を重ね、超高層RC造集合住宅の設計・施工システムMARC-Hシステムを確立。主要躯体のPCa化による合理化施工と同時に、高品質・高耐久性を実現させました。そして、平成26年(2014年)竣工のパークコート千代田富士見ザタワーでは前田建設のPCa施工の集大成として取り組み、その技術を惜しみなく投入しました。こうして超高層RC造建造物を含む集合住宅の分野で業界のリーディングカンパニーとなった前田建設は、建築においてもその存在感をいかに発揮しています。

「誠実・意欲・技術」受け継がれる前田又兵衛の意志。

大正8年(1919年)の創業以来、今日に至るまで、技術・経営両面でのチャレンジを続けながら、ひたすら誠実に、ひとつひとつ丁寧に、しかも英知と決断をもって全ての仕事に取り組んできた前田建設。社是として定めた「誠実・意欲・技術」の3つの言葉には初の土木工事として木曾福島第2水力発電所工事を受注した時と変わらない前田又兵衛の、そして今、土木・建築の第一線に立つ前田建設社員の未来へ向かう確かな意志が込められています。

Achievements

そのひとつひとつが、信頼の証明。



飯田橋駅西口地区第一種市街地再開発事業(東京都千代田区)

業務・商業棟(地上30階)、住宅棟(地上40階)、教会棟(地上3階)の3棟で構成。前田建設は業務・商業棟と住宅棟の設計・施工を担当。機能の異なる2つのタワーは、周辺地区のランドスケープに配慮し、高さを150mに揃えて一体感のある都市景観とした。



福岡ドーム[現:ヤフオクドーム](福岡県福岡市)

日本で初・唯一の開閉式屋根を備えるドーム球場。総重量12,000tの屋根は3枚のパネルからなり、そのうち2枚が左右に120度回転移動することにより約20分で全開閉する。



Akebono Crystal Wing(埼玉県羽生市) [第44回BCS賞を受賞]

曙プレーキ工業の羽生工場敷地内の本社事務所。800坪に及ぶ無柱空間は17台の長さ22mの張弦梁を設置して実現。



ヨコハマタイヤ タイランド(タイ)

トラック・バス用タイヤをはじめ、自家用車・ライトトラック用タイヤの低コスト・高品質化を目指す。小規模一貫生産方式、画期的な混練工程、徹底的な品質保証システムなどを特色とした工場。

本八幡A地区市街地再開発(千葉県市川市)

当社が特定業務代行者として参画する駅前再開発工事。40階建ての住宅棟、京成本八幡駅に直結する業務棟と商業棟などで構成される。



リバーウォーク北九州(福岡県北九州市)

構成する5つの幾何学的建築物は、北九州市の「豊かな未来への期待のシンボル」として周辺環境と融合。にぎわいのある空間形成と都心にふさわしい魅力ある街づくりを目指してデザインされた。



香港国際空港ターミナルビル(香港)

延床面積516,000㎡におよぶスーパーハブ空港。世界最高の空港の一つと評価され、英国の航空関連調査機関が選ぶ「世界の空港」の常連である。

Achievements



THE TOKYO TOWERS (東京都中央区)

超高強度コンクリート130Nを採用した国内最高クラス58階の高層マンション。制振間柱採用による制振構造、PCa積層工法(柱・梁・床PCa)、銅板柱、外装ACWなどで、最新の手法が多数投入された。

熊本地方合同庁舎
(熊本県熊本市)

九州総合通信局(総務省)、九州財務局(財務省)、熊本労働局(厚生労働省)、九州農政局(農林水産省)、九州地方整備局熊本営繕事務所(国土交通省)、熊本地方気象台(気象庁)などが入居する合同庁舎。12階建て延床面積 26,655㎡

住友不動産半蔵門駅前ビル
(東京都千代田区)

地下鉄半蔵門駅直結。ワンフロア360坪のハイグレードオフィスビル。地上11階建て、延床面積17,235㎡



シティタワー有明(東京都江東区)

2020年の東京五輪へ向けて現在も着々と開発が進む湾岸エリアに計画された。地上33階建て、483邸の大規模タワーマンション。



星のや 京都 嵐峡館改装(京都府京都市)

保津川下りで有名な京都嵐山の桂川を望む木造の老舗旅館を改修し、「星のや 京都」という高級旅館に生まれ変わらせたリニューアル工事。

徳島県立中央病院
(徳島県徳島市)

徳島県における医療の基幹をなす病院施設の建築工事。基幹災害防災拠点としての機能を果たすため免震構造を採用。屋上ヘリポートを有す。地上9階建て、全棟延床面積約36,821㎡、病床数460床

KYBキャダック新工場
(長野県上田市)

当社設計・施工による鉄骨造2階建ての製造工場。延床面積31,335㎡の工場を、厳冬期を含んだ9.5か月の工期で竣工。



ホルトホール大分(大分県大分市)

大分駅南地区の中核的な施設として「交流」「文化」「福祉」「健康」「情報」「教育」「産業」の7つの機能を備えた多機能型複合施設。PFI方式による発注であり、当社も事業者の一員として参画した。延床面積38,000㎡



プロロジスパーク大阪4(大阪府大阪市)

CASBEE大阪Aランク認定施設として開発された、当社設計・施工の大型マルチテナント型物流施設。延床面積127,238㎡ [CASBEE…省エネルギー等の環境配慮、室内の快適性や景観への配慮を含め、建物の品質を評価するシステム]

Achievements



**ザ・天王寺レジデンスガーデン&ビスタ
(大阪府大阪市)**
モダンな格子模様の外観とコンクリート打放し調のモノトーンな色調が印象的な集合住宅。都心に位置する、地上19階建て、413邸のタワーマンション。

**BIG FRONT ひろしま
(広島県広島市)**
新たな駅前ランドマークとなる超高層複合施設。地上52階建てと地上10階建ての2棟で構成され、マンション・ホテル・オフィス・店舗が入る。



学校法人大妻学院 大妻女子大学H棟(東京都千代田区)
千代田キャンパスの教育環境のさらなる拡張と充実を図り、「ひととつながる」「環境とつながる」「未来とつながる」の3つの“つながる”を目指した校舎。地上8階・地下2階建て、講義室、実験室、情報処理教室、情報処理自習室、研究室などがある。



MARK IS 静岡(静岡県静岡市)
「ヒト・モノ・コトが集まる静岡の新しいランドマーク」として、東静岡地区の新たな賑わいと憩いの拠点を目指す大規模商業施設。延床面積118,000㎡



住田町役場(岩手県気仙郡住田町) [第57回BCS賞を受賞]
町産材や地元で製造、加工した木材をふんだんに使用した純木造の庁舎。伝統的な純木造建築のイメージを大切にしながら、先端的なデザインのレンズ型トラス梁やラチス耐力壁を採用した。



碑文谷ショッピングセンター(東京都目黒区)
都心で随一と言われる延床面積25,815㎡の大規模商業施設。フルリノベーション工事により、外装はこれまでのデザインイメージを払拭して建物を一新。



酒々井プレミアム・アウトレット(千葉県酒々井市)
プレミアム・アウトレットシリーズ9店舗目となる大型商業施設。約200,000㎡という広大な敷地に、約10店舗のテナントが入る大小15棟の建物と4,700台収容の駐車場を、約10か月という短期間で施工した。



株式会社平和本社ビル(東京都台東区)
当社設計・施工による(株)平和の新社屋ビル。上野周辺のシンボルタワーとなるよう、ダブルスキンカーテンウォールを採用した先鋭的なデザインとなっている。16階建て、延床面積8,722㎡

Achievements



東京湾横断道路 海ほたる(千葉県木更津市)

2つの人工島のうち木更津人工島(海ほたる)を構築するとともに、海底トンネルのうち、木更津人工島から川崎人工島に至る中間点までのシールド工事を担当。

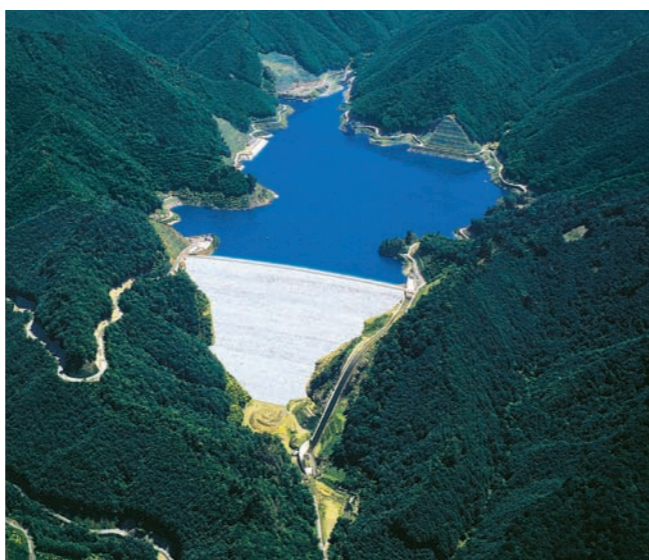


青函トンネル
(北海道松前郡福島町)

北海道新幹線、津軽海峡海底下100m、最大水深140m、トンネル延長53.85km(海底部23.3km、陸上部30.55km)のうち吉岡工区海底トンネルを構築。

南相木ダム
(長野県佐久郡南相木村)

水力発電プロジェクト(2,820,000kW当時)の上部ダムを構築。堤高136m、堤頂長444m、堤体積7,300,000m³、総貯水量19,170,000m³の中央土質遮水壁型フィルダム。



児島湖流域下水道浄化センター(岡山県玉野市)

児島湖流域下水道センター(全体計画下水道量432,000m³/日、処理方式:3段式硝化脱窒法)の水処理施設。水処理などに係る建設工事。



珠洲風力発電所(石川県珠洲市)

全高99.95m、ローター直径70.5m、定格出力1,500kWの風力発電機30基について、当社がEPC事業者として調査・設計から調達・運搬、土木・電気工事までを担当。



MTRチュンカンオー南駅(香港)

MTRCによる既存の將軍奥線の將軍奥操車場に隣接して「將軍奥南駅」とアプローチトラックを新設する工事。政府の委託工事として周辺のインフラも整備(高架橋を含む新設道路、既存道路拡幅工事)。



八戸環状道路 是川トンネル(青森県八戸市)

三陸沿岸道路の八戸・久慈自動車道路に位置する「八戸環状道路」の一般国道45号を改築する延長970mの機械掘削による山岳トンネル。復興道路として早期の供用開始が望まれる中、平成26年3月29日に開通した。



ストーンカッターズ橋(香港)

ストーンカッターズ島と青衣島を結ぶ世界最大級の斜張橋。地下部高架橋289m+289m、海上部橋梁1,018m、橋梁全長1,596m、主塔2基(海面より298m)

Achievements



勝島ポンプ所流入管渠(東京都品川区)

東京都勝島ポンプ所流入管渠に関わる工事。立会川流域の浸水対策と勝島運河の水質改善を目的とする。泥水式シールド工法、延長980m、仕上り内径8,500mm



山須原発電所調整池内崩壊斜面災害復旧(宮崎県)

東臼杵郡美郷町
平成17年の台風14号がもたらした記録的大雨により崩壊した、山須原ダム上流の斜面を復旧する工事。



アッパーコトマレ水力発電所(スリランカ)

スリランカの安定的な電力供給を目的とした水力発電所。貯水量約800,000m³の重力式コンクリートダム、長さ13kmの導水路トンネルと水圧管路トンネル、最大出力150,000kWの地下発電所などを施工した。



豊実発電所改修(新潟県)

東蒲原郡阿賀町
昭和2年から昭和4年にかけて、阿賀野川左岸に施工した水力発電所を、ダムや魚道などの既設設備を活かしつつ、機器効率のアップにより最大出力を56,400kWから61,700kWに上げる大規模改修工事。



名古屋市高速鉄道(愛知県名古屋市)

高速鉄道4号線の八事日赤駅から八事駅の駅間トンネル延長782mを複心円シールド工法(気泡、DOT工法)により構築。



北陸新幹線 白山成町高架橋(石川県白山市)

北陸新幹線高崎起点355km260m~356km488m(L=1,228m)間の高架橋工事。盛土、RCラーメン高架橋、RC橋台、RC橋脚、RC桁、PC桁およびカルバート工を構築した。



北海道新幹線 飯田高架橋(北海道北斗市)

北海道新幹線(新青森~新函館)の北海道川新設区間約38kmのうち、新青森起点145km454m~147km360m、延長1,906mの高架橋を建設した。



東九州自動車道 落鹿トンネル(宮崎県日向市)

延長767mの発破掘削による山岳トンネル。東九州沿岸地域の住民から、九州内の主要都市へのアクセス改善の観点で早期開通を望まれていた。平成26年3月16日に開通。

切原ダム(宮崎県児湯郡川南町)

1級河川切原川に畑地の灌漑を目的とした重力式コンクリートダムを築造。一期工事で基礎掘削、ダム仮設工、二期工事は、本体コンクリートが主。堤高61.3m、堤体積230,000m³、流域面積31.1km²、湛水面積11ha、貯水容量2,040,000m³

社 是

誠 実

事業をやっていくからには
儲けなければならない。
だが、儲けることばかり考えていたのでは
事業は永續きしない。
そこに真心があり、
取引先と心の触れ合いがあってこそ
事業は永續し、発展する。
「誠実」が事業の根本である。

意 欲

仕事、それは自分との戦いである。
技術にしても、価格や工期にしても
負けないという自負心や、
打ち克たねばならぬとして
己を鞭打つ「意欲」に欠けては仕事は出来ない。
要は“やる気”である。
「意欲」それは仕事においても、
人生においても不可欠な心の糧である。

技 術

前田は「技術」を売る会社である。
工事の出来栄をひと目見れば、
これは前田がやったのだということが
わかるような仕事でありたい。
他人のまねをするより、
他人がまねたがる「技術」
それが我々の売りものである。

創 業 理 念

良い仕事をして 顧客の信頼を得る

前田建設創業の理念にして、
品質方針として掲げる「良い仕事をして 顧客の信頼を得る」。
誠実にもつくりこむことで生まれる顧客と社会との信頼感。それが次の一歩につながる。

メ ッ セ ー ジ

前田建設は2019年に創業100年の節目を迎えます。
翻って、国内の建設市場を俯瞰いたしますと、現在は四半
世紀ぶりの活況を呈しているものの、近い将来には建設
需要の縮小とともに需要の中身も新設から維持更新へと
変わっていくと予測され、過去に経験のない大きな転換点
を迎えるものと考えられます。

こうした環境認識から、当社はこれまでも請負事業の収益
力向上とともに、我々が「脱請負」と呼ぶ新たな収益事業に
取り組み、一方では「環境経営NO.1」を掲げて地球環境や
未来の社会にも責任ある企業になることを志して参りました。

創業100年の節目と、市場環境の大きな変化を間近に
控え、今後一層これらの取り組みを進化させて参ります。

2016年度から始まった中期経営計画において、当社は、
「利益率NO.1」「脱請負NO.1」「CSV経営NO.1」を三本の
柱に据えました。

会社のあらゆる部門で生産性向上に取り組み「利益率
NO.1」を目指します。

再生可能エネルギー事業やコンセッション事業の取り
組みをさらに加速させ、「脱請負NO.1」を目指します。

そして、これらの事業活動を通じて、お客様や協力会社を
はじめ、あらゆるステークホルダーとともに、様々な社会的
課題の解決に取り組み、そのことによって当社の持続的成長
を実現するCSV経営に邁進して参りたいと考えております。

節目の100年に向け、そしてさらにその先の100年を
見据えて、今何をすべきか、戦略とその実践がまさに求め
られているものと考えております。

皆様には倍旧のご指導・お力添えを賜りたく、お願い
申し上げます。



代表取締役社長

前田 操 治



100年への感謝を、 101年目の誓いへ。

1919年、福井の小和清水の地で、

初代前田又兵衛が土木工事専門施工会社として創業して以来、

1946年の会社設立を経て現在に至る前田建設。

その過程においては、世界最長・最深の海底トンネルや東洋一のロックフィルダム、
日本初の開閉ドームや国内最高階の超高層住宅に加え、日本初のPFIとコンセッションなど、

時代のニーズに合わせた様々な挑戦を続けて参りました。

そして2019年、創業100周年を迎える前田建設。

私たちは、創業以来のあらゆるステークホルダーへ感謝の思いと、

「誠実 意欲 技術」の社是を胸に、これまで続けてきた挑戦の歴史を継承し、

次の新たな100年への一歩を踏み出して参ります。



MAEDA

前田建設工業株式会社

〒102-8151 東京都千代田区富士見二丁目10番2号 TEL.03-3265-5551(代)
<http://www.maeda.co.jp>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。